

生物・生態サイトカード

通しNo.		A-2		更新日	2025/3/19
サイト名		つしま 対馬暖流と島根半島の海生生物			
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 動物 <input checked="" type="checkbox"/> 植物			
	生息地	島根半島沿岸			
	分類				
	管理団体／保護団体／モニタリング				
	留意点	イボヤギ:しまねレッドデータブック(準絶滅危惧)等			
サイトの解説	生物・生態	<p>対馬暖流が直接当たる島根半島一帯の海岸域には、珍しい海生生物たちがたくさん見られる。サンゴ礁を形成する造礁性イシサンゴ類や珍しい海生生物が多く確認されており注目される。</p> <p>その代表的な種はニホンアワサンゴやアメメサンゴなどの造礁性イシサンゴ類で、日御碕沖の水深3～20mの海域に生息している。</p> <p>ニホンアワサンゴは日本近海固有種で、黒潮海域では相模湾から九州東岸にかけて、対馬暖流海域では九州西岸から若狭湾にかけて分布が知られている。また、韓国からの記録もある。これらの分布状況からも分かるように、暖温帯地域に適応した種と考えられている。本種は、直径が10cm前後の小さな群体にしかならず、しかも高密度な群落を形成することは稀である。</p> <p>アメメサンゴは、インド・西太平洋域に広く分布する亜熱帯種で、日本では本州中部以南に分布し、隠岐でも分布記録がある。この他、フタリビワガラインシやキクメイシモドキ、イボヤギなどの暖帯性や亜熱帯性の多くのサンゴ類が確認されており注目される。また、北方系のサンゴ類であるムツサンゴも確認されており、日本海側における西・南限の分布の可能性が高い。</p> <p>サンゴ類以外にも1976(昭和51)年にホヤの1種のシライボヤが日御碕で確認されており、世界で2番目の発見例となっているなど、注目される種もみられる。これらの他、島根半島一帯の海岸には「カイダコ(貝蛸)」の別名をもつメスが貝殻をもつタコのなかまのアオイガイがよく漂着する。</p> <p>日御碕海岸一帯の陸域は大山隠岐国立公園に指定されており、海域の一部は以前海中公園地区と呼ばれていた海域公園地区に指定され、サンゴ類や海藻その他の生物などの保護が図られている。</p>			
	地形・地質、歴史・文化等	<p>対馬海峡を流入する対馬暖流は、日本海の温暖な海面水温及び表層水の貯熱量の変化に大きく影響を及ぼしている。年間を通して毎秒1.6～3.3×106立方メートルの海水が流入しており、流入量は1～2月に最小になり、8～9月に最大になる。これを海水の熱輸送量でみると、94～281テラワット(平均して184テラワット)となる。一方で、津軽海峡や、宗谷海峡、間宮海峡を通して表層水が太平洋側へ流出するため、日本海全体での熱蓄積量は1/3程度という。地球温暖化による影響は、日本海表層海水の貯熱量にも大きな影響を与えている。</p>			
写真・図等		<div> ニホンアワサンゴ</div> <div> イボヤギ</div> <div> キササンゴ</div> <div> フタリビワガライン</div>			
参考文献		佐藤仁志(2015) 松江市史 通史編1自然環境・原始・古代(松江市史編集委員会): 164-167. 松江市. 佐藤仁志(2011) 出雲北浜誌(出雲北浜誌刊行委員会): 73-74. 北浜自治協会. 佐藤仁志(1991)しまねPR読本「コンパス」.82- 85. 島根県広報協会.			